



保育スペース天井は、1辺が2間半の正八角形、最大スパン11m半

## 国産無垢材の杉を多用し内装木質化

# 国産無垢材を使った真壁の大空間

ナイス(株) 木材特建事業部 / 小野建築設計室 (神奈川県横浜市)

木造化が進む施設建築分野では、構造材のみならず、家具、内装も含めた国産材による内装木質化の提案が進められている。

建築事業及び木材・建材事業を行っているナイス(株) (本社：神奈川県横浜市鶴見区) は、今年4月から、木造建設事業部を木材特建事業部に改称し、木質化推進室を創設。非住宅の木造化において、国産材を原材料とした同社オリジナル商品を内外装に使った提案活動に取り組んでいる。昨年10月より工事 (施工：ナイス(株)) がはじまった神奈川県横浜市戸塚区の寺院 (真言宗大覚寺派 宝蔵院) が運営する保育

園「Rita School (リタスクール)」が4月に竣工し、4月21日に完成見学会が開催された。

木造2階建て、建築面積245.81㎡、延床面積340.39㎡。木材使用量87㎡。設計を手がけた小野建築設計室の小野誠一氏 (一級建築士) によると、以前は、箱型の耐火建築物が建っていたが、「自然なものを目指したい」という施主の希望に沿って設計・デザインを進めた。改正建築基準法では、火災時の避難経路と時間が確保できれば、建物全体をコンクリートや鉄骨などで建てる「耐火建築物」としなくても認められるようになった。今回の建築では、2階を



道路に面した入口にオーガニックカフェ



ブレースを配置し水平構面を確保



幼児サイズのキッチンも導入



トイレ、バルコニー前、家具に圧密木材

保育スペースにすると耐火建築としなければならないため、1階を主に保育スペースとし、2階を主に事務スペースとした。これにより、耐火、準耐火の要件がなしとなり、塾などに相当する認可外幼稚園として、建築確認をクリアした。敷地は高低差が1mあるため、スキップフロアにするなどレベル別に違いを出して役割を変えた。旧東海道の道路に面した入口前にバス停留所があることから、軒を出して雨宿りスペースとし、内部はコンクリート土間として、地元の声を入れるオーガニックなカフェスペース「まなびのカフェ」とした。

真壁で柱・梁をあらわしとし、できるだけ無垢材を使用し、床レベル差に合わせてゾーニングを行い、耐力壁の配置を工夫。保育スペースは、一部で集成材（最大断面寸法 120mm × 600mm

の梁)を用い、最大スパン 11.30 m (11m 半) とし、水平構面を固めるためにキャットウォークに鉄筋の水平ブレースを配置することで、通常は、6 m の柱が 200mm 角になるところを、規格材の 4 寸角でできるようにした。

保育ゾーンでは、幼児用のキッチンも導入し、火を使って調理できるスペースとなっている。ナイス(株)木質化推進室によると、内装木質化としては、国産無垢材の杉を多用し、壁・天井に柿渋を塗った。圧密木材「Gywood®」を1階のトイレや、2階のバルコニー前の床や、家具に用いた。床・デッキ・バルコニーには南九州の飫肥杉<sup>おび</sup>の赤身「ObiRED®」を使用。北関東の八溝杉を一部に使用し、キッチンカウンターには越前杉を使用。同社看板商品を多く使い、施主からも好評を得た。